

## 苦言

理研の Seminar でいつも文句をつけ、その arrange 係からしょっちゅう苦情を聞く。  
こっちもカンニン袋の尾がきれさうなので、わが眞意を伝えたい。

狭い専門家だけが集る討論会（等 —— 内輪の Seminar も含めて —— ）であれば、  
どんなにジャーゴンを使おうと、舌足らずの話をしようとして勝手である。聴衆は同業者に  
限られるからだ。しかし、同業者だけでなく広く物理の分野の人々に聞かせるつもりでの公開の  
Seminar —— 理研は原子核・素粒子・中間子・原子分子・宇宙物理など広い分野  
にわたって研究室がある。それらの相互学術交流は必須のものとする。さうでなければ  
一つの研究所に同居する意味がない —— 理研だけでなく所外の同業者や関心をもつ隣接  
分野の聴衆を期待してゐる —— 、それを僕は期待して Seminar をききに行ったのだ。

さうしたら説明なしのジャーゴンや自分の同業者に示した slide をみせてくれる。グラフ  
にはタテ軸の説明がなく初見の Notation が頻出する。

Seminar は 50-60min で、あとの 10-15min(?) が discussion と、Y は期待する。集中  
して Seminar をきくのは 1hr 以上は無理である。Y が現役時代に出た世界各地の大な研究  
所の Seminar がさうだったからだ。ダラダラと 1hr30min も talk されてはこっちの注意  
力が減退する。

そもそも Seminar は 50-60min で終わるように、その範囲内で同業者だけでなく隣接分  
野の連中にも明瞭に理解させるよう最大限の努力をするのが speaker のつとめである。

Viki や Pief のような大物でさへ、Seminar をたのまれば、title と talk の time、  
discussion time の長さ、audience はどんな連中なのかを予めたしかめ、それに合わせて talk  
の程度と slide(transparencies) の枚数 (や、専門家むきか、隣接分野の人もくるか、あるいは  
広く物理学者がくるのか、Post Doc 以上だけか、grad, student もくるのか、etc, etc) を  
きめ、時計を使って予行演習をして時間以内におわるかどうかたしかめてきたといふ。

Viki や Pief のようにえらくない連中がノホホンとした Seminar、不備の多い、  
transparency を示すと、lab とその staff の程度の程がしれると秀文。 (使った、専門家

ICHEP や ICNS, PANIC のプレーナリートークの予行演習位のもので、speaker たる  
者に Seminar の用意をしてもらいたい。さうして speaker がきたえられていれば、外国の  
Univ, lab, authorized international conference の invited speaker になっても大丈夫である。  
(ジャーゴン  
仲間)の  
11の

(僕は speaker の準備不足にあきれ且むくれて)

Y はその training のつもりで speaker を叱咤激励してきたつもりなんだ。だが一向に成  
果が上らぬ。だからこの苦言を物した。心せよ。

尚 Y の Seminar でのありようは Nils Bohr の Copen から仁科朝永をへて、Y がその

マネをしているだけだ。そしてそれが物理をきたえるものだと信じて来たのだ。戦前の理研の覇気をとりもどすつもりなら、現行のタコツボの研究方式をやめて、Lab 間の物理の本気での交流をはじめなければなるまいと思ふ。

理研が国際的な Lab として世界に覇をとなえるためにと願ってのことなのだ。